

見附市に介護支援の拠点誕生

新潟県の中郡、中越地区が元気を
取り戻しました。二度の自然災害、
水害、中越、中越沖地震を経て復興の
槌音が高らかに鳴り響いてきたのです。
そんな災害にもめげようとしない意
気の中、新しく介護支援の拠点「ケア
センター・介護支援センターこまち」
が開設されました。
(株)こまち代表の遠藤英男さん、ケア
センターこまち管理者・吉原市子さん、
介護支援センターこまち管理者・加藤
真理子さんからお話を伺いました。

愛されて働いて「こまち」

介護支援センターこまち ケアセンターこまち



「こまち」の事務所内部(上)
と語る代表者・管理者の三人

「アットホーム」の精神を生かして

事業所の 開設経過

新規開設で何が重要か。
前記二人と、スタッフ

全員が考えたのは、「ア
ットホーム」でした。
「こまち」という名の
由来もその「アットホー
ム」の精神が生きていま
す。見附という古い、小

さい町で覚えやすく可愛
がってもらえるようにつけ
たということです。「こ
まちさん、と声を掛けて
いただく幸せな気分にな
ります。」とは、加藤

さんです。

準備段階の苦勞

二月の半ば過ぎから準備を始め、なにがなんでも四月一日に開設しようということでしたので時間がありませんでした。毎日深夜まで膨大な資料の作成に追われる日々でしたが、待っていてくださるご利用者様の顔を思い浮かべることでパワーをもらい、事業所開設にこぎつけました。

現在の運営状況

遠藤さんに現在の運営状況について語ってもらいました。

「見附市健康福祉課の方々と関係事業所の方々に温かく見守っていただき、と同時にご支援を頂き、おかげさまで開設二年目の若い事業所としては恵まれた仕事をさせていただいております。

特長は機動力、他の事業所でもあまり行っていない、朝や夜の隙間の時間帯にも介護をする。そういうことを含めてヘルパーの時間調整などでかなり苦労はしていますが、いただいた仕事はお断りすることなくしっかり受けるという姿勢が他の事

業所からも支持をいただき、他社の訪問介護の仕事が七〇八割を占めています。

夜間に仕事ができるヘルパーは限られています。その穴埋めをスタッフがこなしたりします。」

緊急の依頼で、電話を受けて急いで駆けつけることも時々あるそうです。

二十四時間訪問 介護の必要性

ご家族がゆっくり休んでいる間に、訪問介護でオムツを交換したり、トイレ介助などをする事で、ご家族とご利用者様がいい関係を保ちながら在宅で生活することが一番大事なことです。でも、人間生身ですのでヘルパーが倒れることも考えねばなりません。大切なヘルパーが倒れる前に疲労を察知して、業務の調整をしています。

「私たちの事業所は、ヘルパーもスタッフも仲がよく、とても雰囲気がいいのが特長です。ですからとてもチームワークがいいですし、助け合える、悩みも言い合えるようになっており、それがすごくいい点だと思います。私たちの事業所のヘルパーの平均年齢は五十歳

なんです。ヘルパーの仕事を考えて、主婦の経験もあり、子育ての経験もあり、オムツを交換したこともあるなど、今までの人生経験を活かしてできる仕事だと思っています。

私たちの会社は定年もありませんので、幾つになっても、仕事が続けられる間は一緒に仕事をしたいと思っています。」と吉原さん。

次に考えていること

「今はまだ、訪問介護を柱に現状をしっかりと形にしたいと思っています。そのうえでニーズがでてきたら、新たな分野にも取り組んでみたいと思っています。そのときにはまたよろしくお願ひします。」と代表の遠藤さんが今後の展望を述べてくださいました。

インタビューの 日時と場所

・二〇〇八年五月八日
午後一時半〜午後三時
・ケアセンターこまち
(見附市市野坪町
一三三〇一)
トミサビル東側3F

●櫛は縁切り、かんざし形見……

中島 市川先生が、二十

年前に何で『ふみ子の海』
を書いたかということを書
きながらお話してください
ますよね。私は「どう
して『ふみ子の海』が市
川先生の世界で生まれた
の」って人に聞いて回っ
て、ふみ子のような盲人
の書かれた本をいっぱい
読ませていた

だきました。

映画の試写会
の時に久しぶ
りに声をあげ

ないで泣くの
にすごい努力
をしたのです
よ（笑）

市川

そうですね、上映会
に行きますと
みんな出てく
るときに目を
真っ赤にして、
なかにはかな

りいいお歳の男性が「い

や、三十年ぶりに泣いた」
とか。みんな下向いて泣
きながら出てくるんです。
それが、辛くて泣く、悔

しくて泣くんじゃなくて、
「ああ泣いたなあ」とい
う気分です。

中島

泣くことってそう
いえば忘れていましたね。
泣かせてくれる映画は陳
腐な世界みたいな感じで

抵抗がありますもの。

市川 私は出版の前から

高田警女と付き合いがあ

りました。世間の人は、

視力を失うというのは非

常に恐怖。人間の情報の

80％～90％は目で入れて

いるわけです。それを閉

ざされたら、絶望で死を

選ばざるを得ないという

思いを持つ

ている人は

たくさんい

ます。ここ

前号、二十周年記念号

で好評の鼎談（市川信夫

氏・中島紀恵子氏・武藤

敬一当社長）の続編で

す。今回は市川

先生から盲目の

世界の具体的工

ピソードを、中

島先生からは市

川先生の話の中

で示唆されてい

る高齢社会と障

害社会の接点を

話していただきました。

障害を持たれた方々の生

き方から高齢社会が浮か

んできます。

ろが、瞽女

の親方もそ

うだし、み

んな生き生

きとしています。我々に

はもっていない何かがあ

るな、という気がします。

親方は、こういう話を

私にしてくれました。「櫛

子どもの時から「櫛は拾
うな」といわれていまし
た。

中島 あ、昔からあった

わね、それ。

市川 それから、「かん

ざし形見”。かんざしと

娘とか女性に次に伝える

ために贈って形見にする

んだと。指輪は当座の

縁つなぎ”の指輪という

のは、ちょっと仲良くし

ようというときに渡すも

のだと。



中島 紀恵子氏
（新潟県立看護大学 前学長）

瞽女さんの生き方に高齢社会を学ぶ

映画「ふみ子の海」が受け入れられるワケ



市川 信夫氏
（上越保健医療福祉専門学校
名誉学校長、
「ふみ子の海」原作者）

いうのは女の誇りで自分
の髪を飾る。だから瞽女
の親方はメノウかサング
の丸い玉のかんざしをし
ていました。かんざしと
いうのは女の誇りだから、
自分がかわいがっている

瞽女たちが集落で、瞽
女宿に入って演奏をした
後、女や子どもを帰して、
父ちゃんたちが残って酒
盛りをします。その時に
瞽女は芸者のかわりにお
酌をしたりいろいろ付き

合って話をしたりするん
ですが、村の男が「お前
いい指輪してるな。俺の
と交換しようさ」と、よ
く取られたり、男の指輪
を貰います。高価なもの
じゃなくて、男と女、芸
者とお客が付き合って、
ちよっと仲良くなると指
輪換えなにかっていう遊
び心ですよ。で、私にも
「おまんも、夫婦喧嘩し
たときにたまに指輪でも
買って母ちゃんにやるん
だよ」といわれたり（笑）。

中島 それがとても面白

かったんですか？

市川 おもしろいですね。

中島 それで、なんでふ

み子になったんですか？

市川 だから、そういう

のが盲人なんです。我々

が想像している、暗い中

で寂しい思いをしている

人間じゃないんです。む

しろ、元気に生きている。

ふみ子もそうで、そうい

うものを私は子どもたち

に伝えたかった。目が

見えなきゃしょんぼりし

ているんじゃないんだよ

と。目の見えない人だっ

てできることはできるん

だ。だから、ふみ子は凍

死しそうになったり、親

方にいじめられても、生

きるという自覚を持って

いた。そういうことを伝

えたかったんです。

中島 わかった。私ね、

今この「くしは縁切り
かんざし形見 指輪は当
座の縁つなぎ」って、老
人ホームに入る時に老人
たちがここで、人生終わ
りにして、家族と縁を
切って老人ホームに入
る、現世との縁切りをし
て終の棲家にひっそりと
入る、そういう世界なん
です。だから、家族は縁
切りされているわけだか
ら、「もう介護は終わっ
た」っていう気持ちだし、
友人だってそこに行かな
いわけで、あつという間
に老人は寂しくなってい
まうわけです。で、私は

その事をものすごく悲し

いと思って、地続きの老

人ホームを作るために懸

命になり、グループホー

ムを作る運動もやってき

た。そういう歴史を私は

持っているんです。だか

らようやく、入るんだっ

たら病院より老人ホーム

っていえるようになった

じゃないですか。時代は

変わったんですよ。介護

の世界だって食えていけ

る世界になったじゃない

ですか。介護用品のレン

タルも「ああ合理的」っ
て、三十年前にはなかつ
た世界。その前に市川先
生が、こういう子どもへ
の差別、閉ざされた世界
をひっそり生きていると
いうことをなんとか解消
させるために本を書いた
ということ、みんなつな
がっている思います。だ
からどうやって、高齢者
も障害者も地続きの人生
を作っていくかというこ
とを考えねばなりません。
多くの人たちがこの福祉
のための運動を続けてき
て、それが今なのだと思
います。今度はその高齢
者自身が率先していくな
ければいけないでしょう。

高齢者は初めて障害者と

して体験することですか

らね。自分の幸せは自分

で探す、その道を自分た

ちで切り開く、その為

は自分たちが語り手にな

らなければならぬ。本

人たちが生きる力を手に

入れながら地域の人たち

に「ああ大丈夫」という

高齢者をいっぱい生み出

していかないといけない

んじゃないでしょうかね。

●風土に生かされた「瞽女の百人米」

市川 瞽女は日本中にい
たんですよ。九州にも、
東京にも瞽女はいたし、
そこらじゅうに瞽女がい

たなかで、なぜ越後に最
後まで残ったか、信州に
も瞽女がいたけど、なぜ
そっちの方の瞽女は早く

なくなっただかという、はつきりした理由はありません。でも、換金作物、要するに小豆とか大豆とかそういうお金の相場になるものを信州の人は収穫に取り入れた。すると半分商人で半分百姓になっていつも相場を見てないといけない。すると、ものすごく忙しくなるんです。そういうところから瞽女の歌などのんびり聴いている訳にはいなくなりました。越後では、米だけ一年に一度作って、冬は何も仕事ないからこたつに入って酒飲んで……そういう豊かさの中に瞽女がいる場所があった。だから豊かって何かって考えると、電気や冷蔵庫がなくなたって、塩鮭だの乾物だので人間は生きてきたわけです。瞽女はゆとりの象徴とは考えられませんが、例えば、高田瞽女は一番多いときで百人いたそうです。

中島 百人！ そんなにいたんですか。

市川 組を作って、頸城山群から信州にかけてずっと旅をしていたそうです。それで、瞽女宿というのが村々にある。
中島 今もあるんですか？ どういうイメージなんだろう瞽女宿って？
市川 いわゆる地主の家

で、その村の有力者の家。そこへ泊まると衣食住全部サービスしてもらって、そして丁重に扱ってもらえる。そこで夜になると、村中に、「瞽女さが来た」とふれを出してみんなを集めました。それが一年に一度の楽しみで、終演後は父ちゃんたちの宴会です。

瞽女は今の大字単位の二十戸から三十戸ぐらいの集落に泊まります。村内の一軒、一軒を回って門付けをするとお米をくれる。そのお米の分量もだいたい決まっています、それを泊まった瞽女宿で売っていくわけ。瞽女が集めた米は、「瞽女の百人米」と言って、この瞽女のように目が見えなくても、何でもできる、歩いて旅ができる、歌を歌える、三味線もひけるし、縫い物もできる。それは神様が特別与えてくださったんだと。だからそのお米を子どもに食べさせると勘が良くなると言っていて、村人は瞽女宿にそのお米を買いに来る。生活の知恵ですね。一年のうち三百日を旅している間は全部生活費はかからない。かえって商売になっている。昔は一年一人一石の米があれば生活できる。瞽女は百人ですか

ら、百石の米がいるわけで、今の福祉では、そういう民間の千軒の家がボランティアやるようなシステムは逆立ちしてもできないですよ。

中島 それは今後だってできないわ。私はね、上越にまるまる六年いましたが、それでも上越の地域力・市民力っていうのは、瞽女と関連してずっと感覚的にわかっていたの。地方健在なりっているのが私の中に自覚的にありました。今日のお話伺って、本当にわかった文化なんて百年の計だもの簡単に壊れるものじゃないって。百年たってちょっとしか変わらないんだから。それでも、家族介護がこの頃一気に減ってきました。農村文化が疲弊していくとそうなりますよ。土地を捨てないで、その土地にへばりついていて感覚というのはね、土地とか、自分たちが生きてきた文化を信頼しているのです。
私は瞽女の話を書いて、特養だとか、グループホームが一気にできたのは、差別文化がない越後の文化だということを感じました。でもそれがいろんな意味で遅れをとっています。やっぱり、私たちは農村地方なんだ、お

米で生きてきたんだということをちゃんと自覚す

るべきだと思います。

かまどにや神様、いい新聞は湿気止めさ

市川 瞽女の話ばかりで申し訳ないんですけど、瞽女の家があった東本町四丁目という雁木通りの下町はものすごい職人がいっぱいいたんです。下駄屋から鋤の柄だけ作っているところ、たんす屋から鉄工所、今はもう絶えてしまいましたがね。

んな音が聞こえるわけですよ。瞽女の家もその一軒になっていて、子どもがその家を三味線ひくから「べんべん屋」って。

中島 ああ、私たちも子どもの時言ったわ。

市川 瞽女は、「べんべん屋のばあちゃん」って呼ばれて、そこらへんの



映画化された『ふみ子の海』の原作本 理論社刊 2,100円

中島 私も一番上越にきて、あの雁木通りの色んな製造だとか、麩のお店だとか見てびっくりしました。豊屋の看板だとか、本当に良かったわ。

市川 当時は瞽女が家を一軒かまえていました。高田の瞽女の不思議なのは、盲人だけで住んでいる。でもちゃんと生きています。並んでいる雁木どおりの商売の色

鉄工所の母ちゃんと同じなんです。

それで、面白い話があるんですよ。戦後ね、瞽女のお家の通りの裏はずうと最後まで行くと関川の川原なんです。そこで、改革がおこった。プロパンガスです。それまではいつでも薪がいる生活で、飯も何にもできないんだから。ところがプロ

パンガスでスイッチひねれば火がぱっとつく。その時に、みんなが競い合

って、家にあるかまどを川原で、ぶっ潰しました。それで、「じゃあ、おま

んたちもかまどつぶさない。おらがしてやる」と近所の人が瞽女の家

に世話をやきにくるわけですよ。でも瞽女の親方は頑として「いやだ」って。それ

で、「なんでいやなんだ」って訊いたら、「かまどにはかまどの神さんがい

な。さる。おまえっちはそういうこともわからんで、そのかまどぶっ壊しているが、良くそんなことが

できるね。おうちの大事なかまどを川原に捨てて、

誰かが足で踏むなんてこと考えただけでもぞっとする」とね。それが町内の話題になった。それを

聞いたその近くのお宮さんの神主さんが瞽女さんの家

にきて、「お宮の神さん祀ってあるところの縁の下に入れるのはどう

か」と。「そこに置けば神さんが上にい

ただ、誰も踏みつけるものもないから」って(笑)

それで親方も「はい、わかりました」と。それだけ手順踏んで瞽女を生かして

だわ。そのうちなんかなるわ」とは思わない。

どこでどう間違えたか、瞽女の家

に新聞の勧誘員がきた。親方が少しもうろたえないで、「ああ、おまん朝日新聞か

ね。あれはいい新聞だね」って言ったって言うんです(笑)。

そうしたら、居合わせた私の親父がびっくりして、「おまん、新聞知ってんのか

ね」って。そうですか、じゃあ是非取ってください。そしたら、親方は「あれは押入れの下に敷くと朝日新聞に限ってふん

がしけない。だからいい新聞だ」って(笑)

中島 そのお話で私思ったんですけど、その、目が見えない、耳が聞こえない、高齢者になっ

てできないことがどんどん増えてくる、そのときに大事なものは経験した感覚

なんです。だから、この感覚が

一気になくなると大変なの。認知症は、若いときにひもをひっぱって消した電気が壁の

ところのスイッチになったのがわからない。

なんか、瞽女さんの生き方がこれからの高齢社会の高齢者がちゃんと学習しなければいけない生き方だっ

て思えてきた。私。……すごいね。

紹介

長岡営業所

さくらメディカル営業所



地域の皆さまの声にお応えします！
若さみなぎる長岡営業所

直江兼続公の妻、お船の生誕地である長岡市（与板町）は女性が元気で

長岡営業所
〒940-2127 長岡市新屋3-6-5
ダイエー第7ビル
TEL (0258) 21-0090
FAX (0258) 21-0091

新潟県の真ん中に位置する長岡営業所は、介護保険の導入と同時に開設され、九年目を迎えます。

た。現在は社員数も総勢二十三名となり、私たちが目指している体制がようやく整いつつあります。

近郊と中越エリアを担当しており、地域の幅広いニーズに迅速にお応えすることを心がけています。若さが自慢の営業所ですが、社内外の研修を重ねて、知識や経験もしっかり兼ね備えています。私たちは、「いつまでも住み慣れた家で自分らしく住み続けたい」というお客様の願いに、福祉用具や住宅改修を活用したご提案ができる良き相談者として活動しています。今後も皆さまにご満足いただけるサービスが提供できるように邁進していきます。

長岡一C降りてすぐの新産業センター内にあります。

骨髄バンク推進運動
に対して感謝状



本年五月二十四日付で「にいがた骨髄バンクを育てる会」から骨髄バンク推進運動への長年の支援活動に対して感謝状が贈られました。

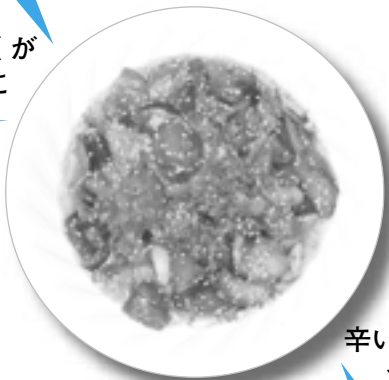
日本では骨髄移植を必要とする患者さんに対するドナー候補者が慢性的に不足しています。当社では、一人でも多くの患者さんが救われるために骨髄バンクの理念に共感し活動を支援しています。

介護簡単メニュー

夏バテ予防に
『なすのにんにく炒め』

蒸し暑い季節はどうしても食欲がなくなります。辛みと香りを生かしたにんにくは、消化機能に刺激を与え、食欲を促すのに効果的です。暑い夏もしっかり食べて体力を蓄え、夏バテ予防に心がけましょう。

にんにくが
活力源に



ピリッと
辛いしょうがで
食欲増進

●作り方（四人前）

- ①なす（五本）は一口大に乱切りにし、にんにく（六カケ）は包丁でたたいてつぶします。しょうが（小一カケ）はみじん切りにします。
- ②鍋に油大さじ4を熱してにんにくを炒め、うっすらと色づいてきたらしょうがを入れ、なすを加えて炒めます。
- ③油がなじんだら水大さじ一〜二を加えて好みの柔らかさにします。
- ④胡椒、七味、だしの素、砂糖、醤油は好みの味で加えて、火を止める前に酢（スプーン小一）を加えます。
- ⑤好みでごまやきざみ青じそをふりかけます。

さくらメディカル（株）高田訪問介護課 板倉寛子（介護食士）

○新人紹介



今春入社、勉強の日々が続く和田知子さん
（長岡営業所 営業担当）

福祉用具に携わる仕事が出来たいという夢を実現するならここだ！と入社。五年間勤めた介護の仕事とは少し違いますが、今でもお客様の笑顔と「ありがとう」が大きな支えです。お客様の立場になって、より良い福祉用具をご提案・ご提供できるように頑張っています。

シヨップ便利用品ご案内

軽量コンパクト
『スワニー ウォーキングバッグ』

で軽快にお出かけ

梅雨が明けてさわやかな青空が広がり、外出が楽しみな季節になりました。今回はそんな季節にぴったりのすぐれもののバッグをご紹介します。

外観は、どこにでもある普通のキャリーバッグです。ところが、よく見るとハンドルが身体の方に緩やかに湾曲しています。このハンドルの湾曲によって、バッグがまっすぐに進みやすく、軽量で安定した操作性とともに、杖のように身体を支えることができます。どの方向にも滑らかで静かに回転するキャスターも根強い人気の秘密です。一般的な引っ張るタイプのバッグよりもわずか六分の一の力で押すことができます。また、ハンド



ベステイージXS
定価 一六八〇〇円（税込）



ジップカートマークⅡ
椅子付
定価 二一〇〇〇円（税込）

ルもバッグの高さまで収納でき、コンパクトで邪魔になりません。バッグを本体から取り外せるタイプや疲れたときに重宝する椅子付きのタイプなどもあり、デザインや大きさも豊富で男女を問わずおしゃれにご利用いただけることも魅力の一つです。